

## ■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。  
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

\* : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

Ⓒ : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 学術俯瞰講義  
Copyright 2015, 白波瀬佐和子

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series  
Copyright 2015, Sawako Shirahase

# 社会的想像力のススメ ～見えないことと見ようとしらないこと～

学術俯瞰講義：  
クールヘッド・ウォームハートーみえない社会をみるために

2015年10月16日（金）  
白波瀬佐和子（人文社会系研究科）

# トピックス

- 少子高齢化はマクロな人口変動
- それをミクロな観点から読み直してみると何が見えてくるか？
- 少数派と多数派
- なぜ、少数派なのか。
- 超高齢社会の中の若者

# 変化の意味

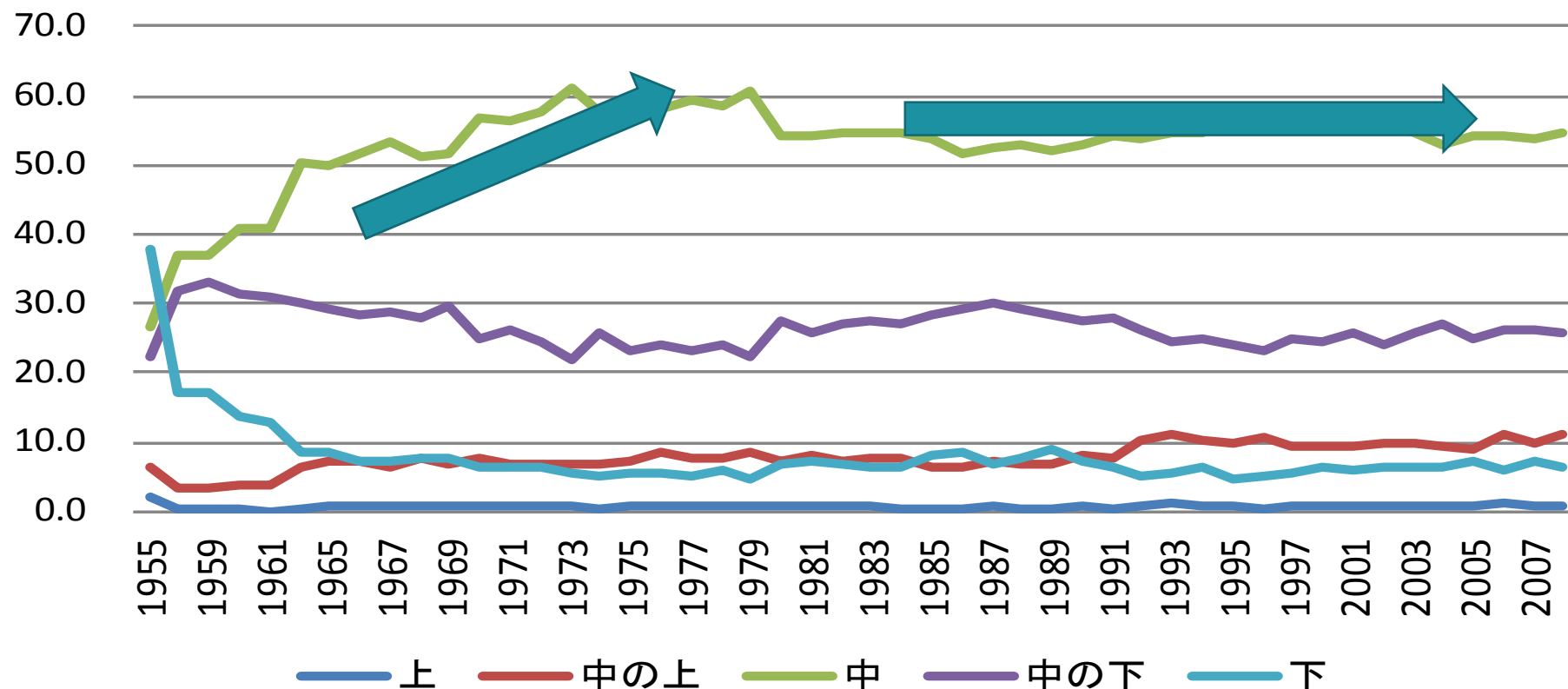
- 変化/違いをみるための3つの側面：
  - 年齢、時期、時代（コホート）
    - 年齢と共に変化すること（健康）
    - ライフステージのどの位置にあるのか。卒業後何年経つのか。
    - いつの時代に生まれたか。いつの時代に就職活動をしたのか。
- マクロな状況には、ミクロな3つの要因が混在している。

# 右上がりの将来を前提とした一億総中流

- 一億総中流意識を支えていたのは、右上がりの見通し。
  - 親世代よりも子世代が豊かになる確信
- 10年後、20年後の将来を見通して、住宅ローンを組み、子どもの進学に向けて貯金する。

# 二つの言説のねじれ：一億層中流社会から格差社会へ？

## 図 暮らし向き意識の変化 (%)

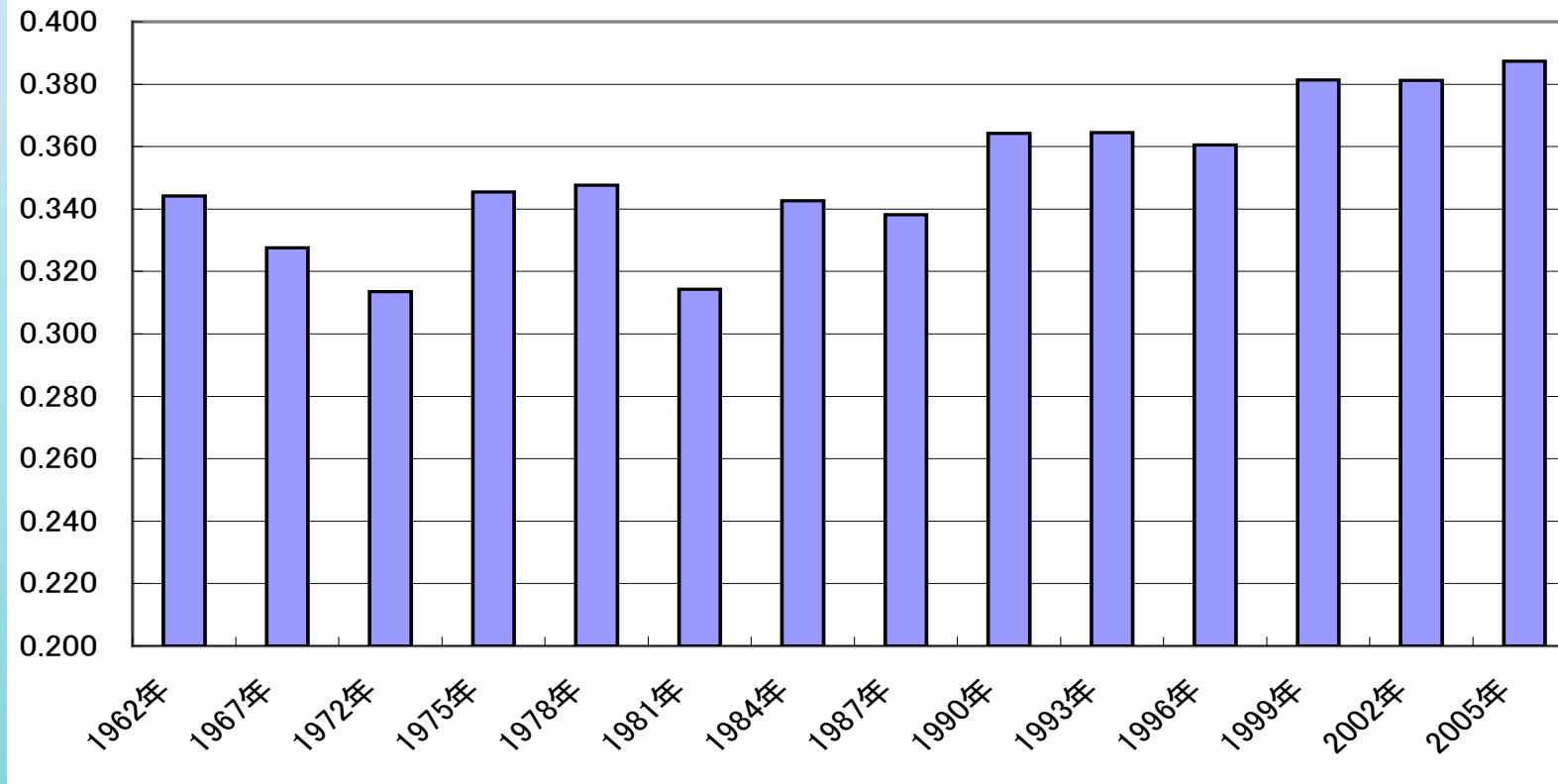


出所)「国民生活に関する世論調査」(内閣府、各年)

「内閣府国民生活に関する世論調査」 (<http://survey.gov-online.go.jp/index.html>) より、  
各年のデータをもとに作成 (<http://survey.gov-online.go.jp/y-index.html#nendobetsu2>)

# 格差社会・日本

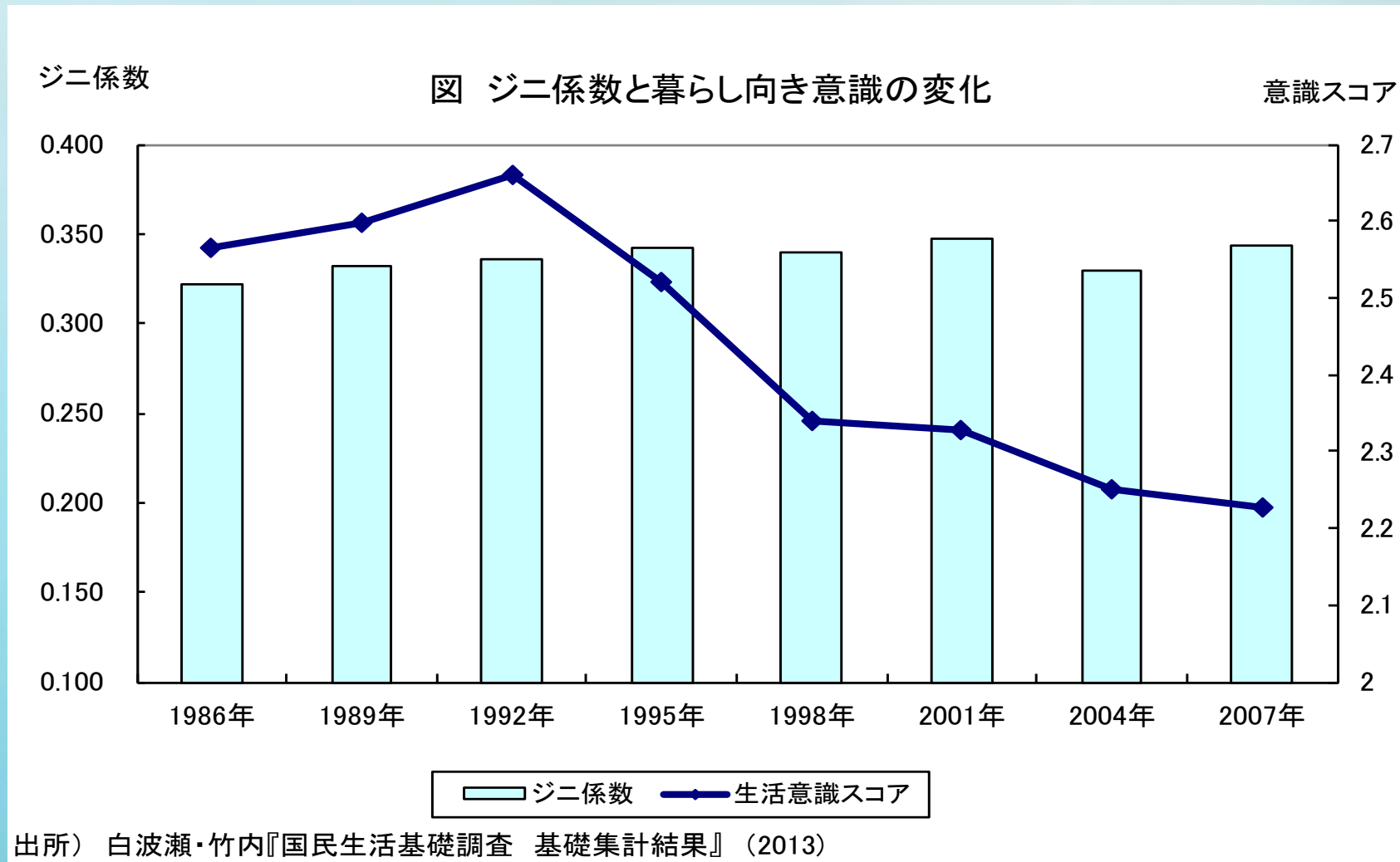
図 所得格差(ジニ係数)の推移



出所)「再分配調査結果概要」(厚生労働省、各年) データを元に作成

注)ここでのジニ係数は、再分配所得をもとに算出されている。再分配所得とは、当初所得(雇用者所得、自営所得、農耕・畜産所得、財産所得、家内労働所得、雑収入、仕送り等の私的給付)から税金、社会保険料を控除し、社会保障給付(現金、現物)を加えたもの。

# 苦しい暮らし向き





# 人口高齡化と所得格差拡大

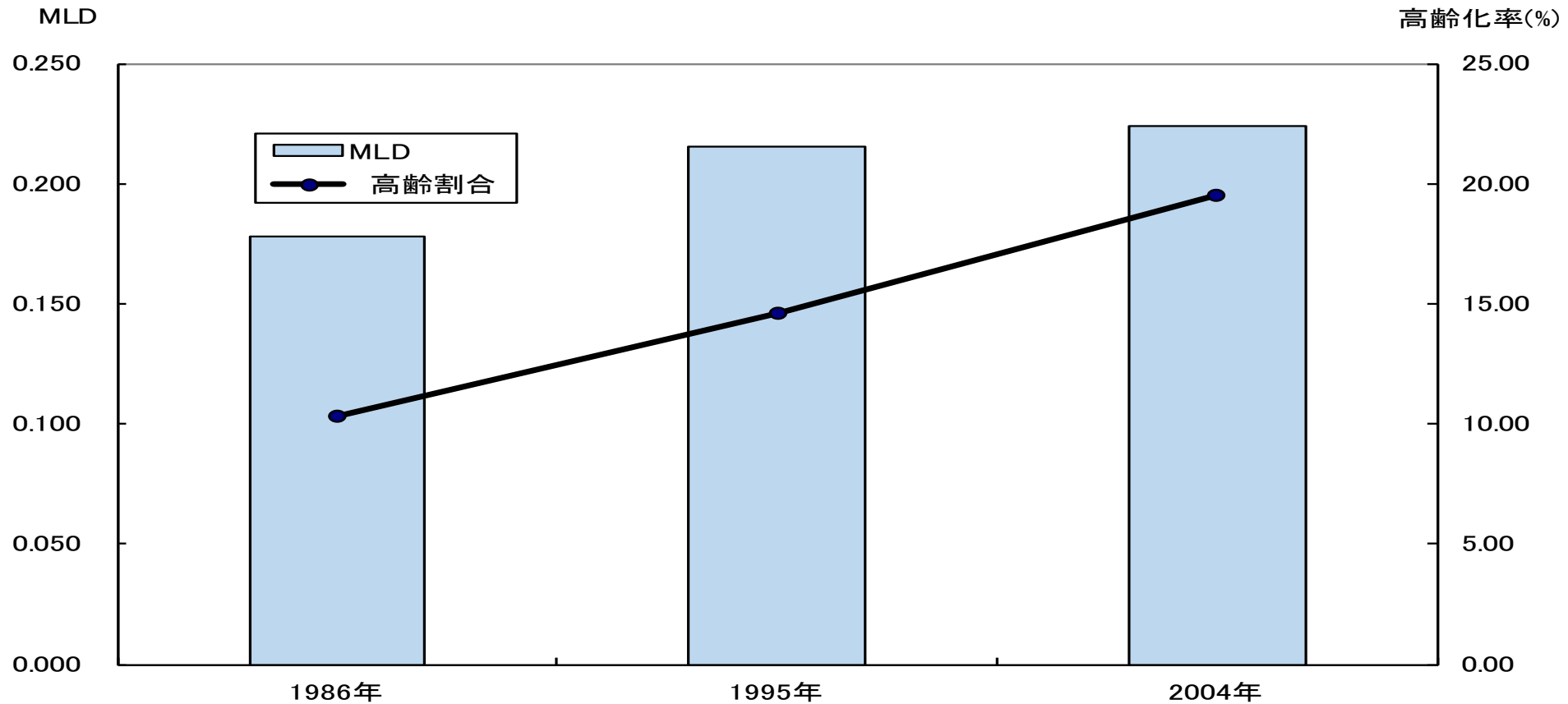
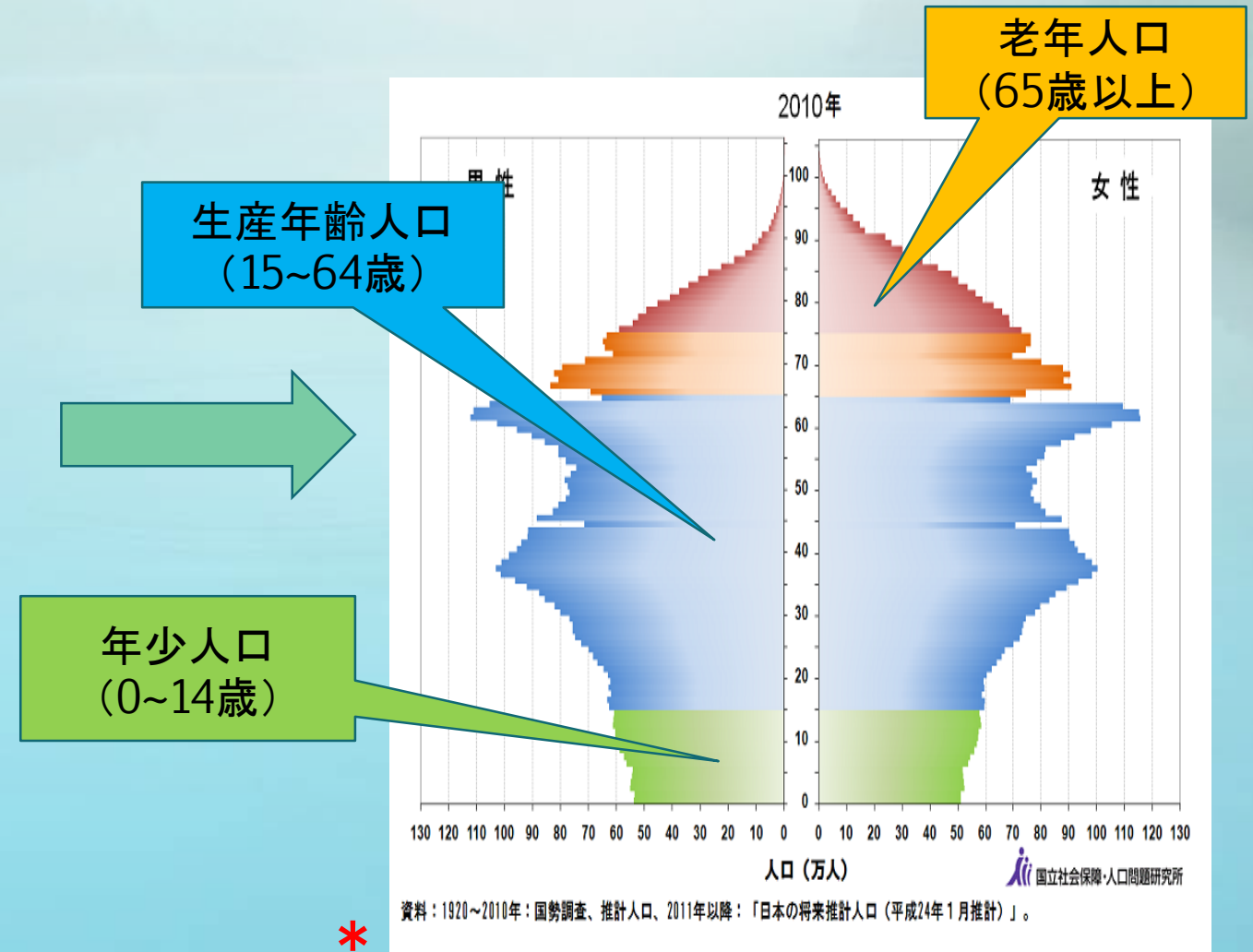
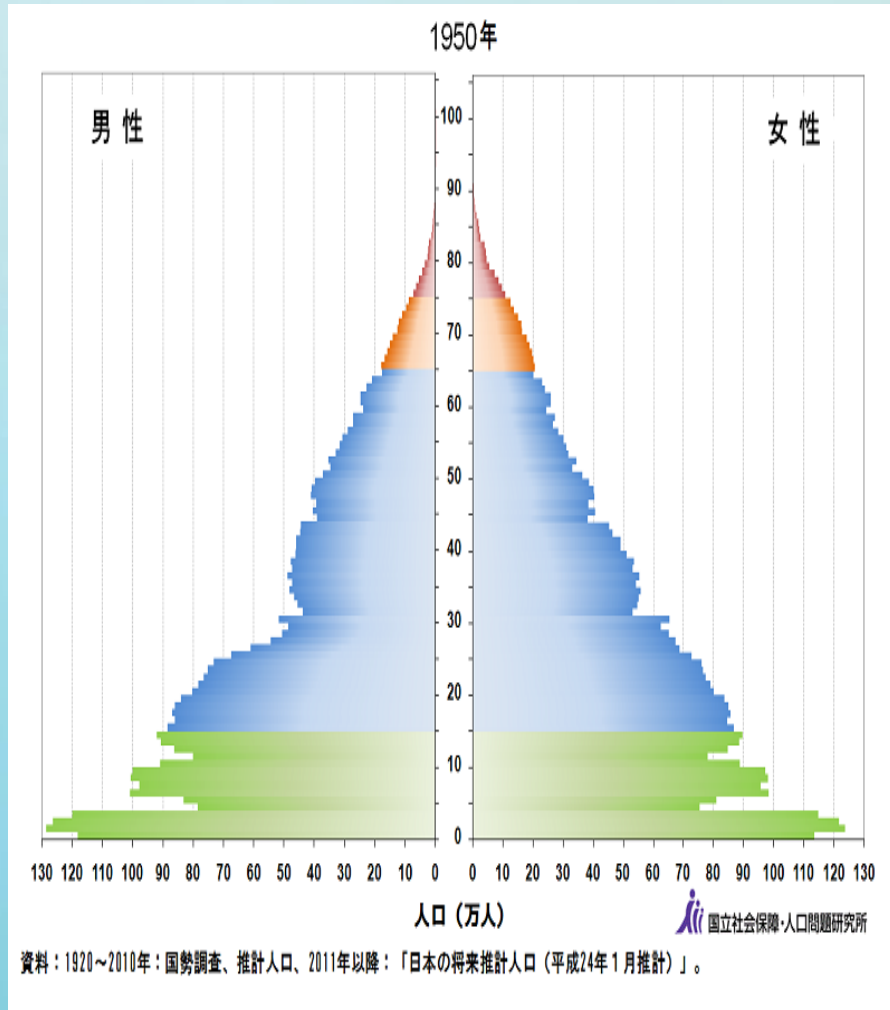


図 所得格差と高齢化率

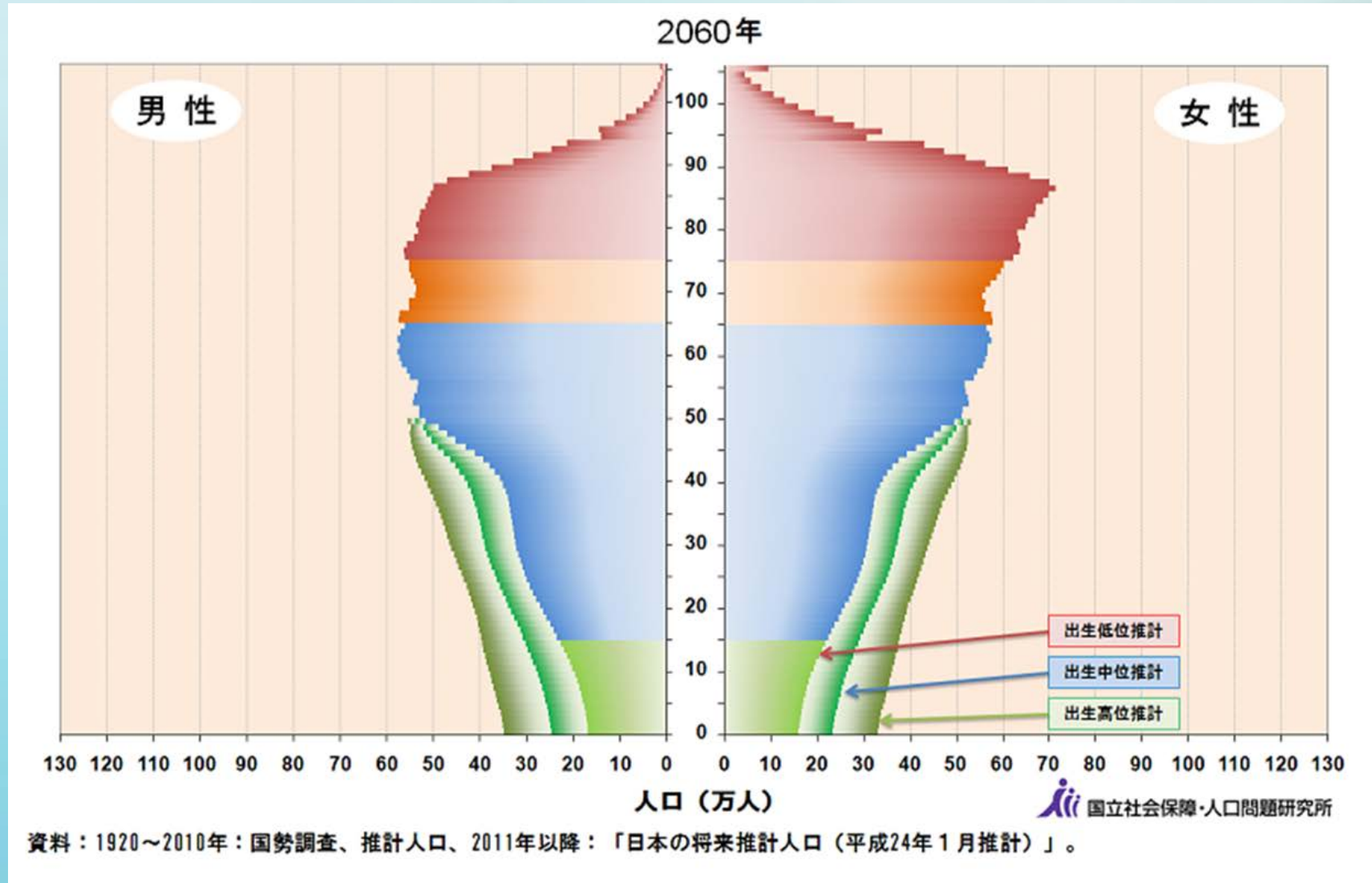
出所) 白波瀬・竹内(2009)図1 (p.263), 平均対数偏差(MLD)

\* 出典: 白波瀬佐和子・竹内俊子(2009)「人口高齡化と經濟格差拡大・再考」<sup>9</sup>  
『社会学評論』第60卷第2号、259-278、p.263 図1「所得格差と高齢化率」

# 人口構造の急激な変化



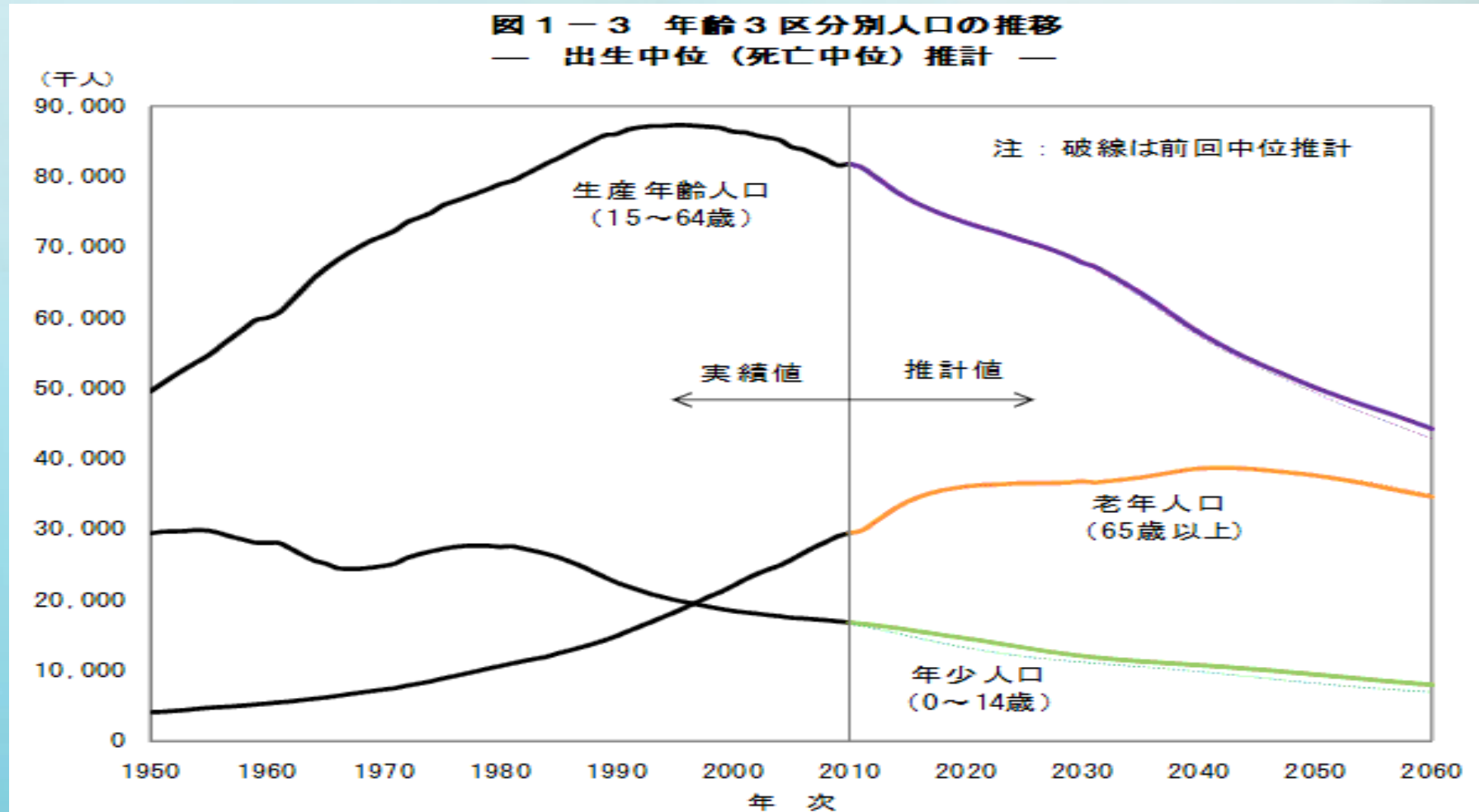
# 45年後のわたしたち



\* 「人口ピラミッド」2060年（国立社会保障・人口問題研究所ウェブサイトより）  
<http://www.ipss.go.jp/site-ad/TopPageData/pyra.html>、2015年10月4日参照。

# 日本の将来推計人口（平成24年1月推計）』

国立社会保障・人口問題研究所（2012年3月30日公表）



\*

日本の将来推計人口（平成24年1月推計）（国立社会保障・人口問題研究所ウェブサイトより）

図1-3 年齢3区分別人口の推移 — 出生中位（死亡中位）推計 —

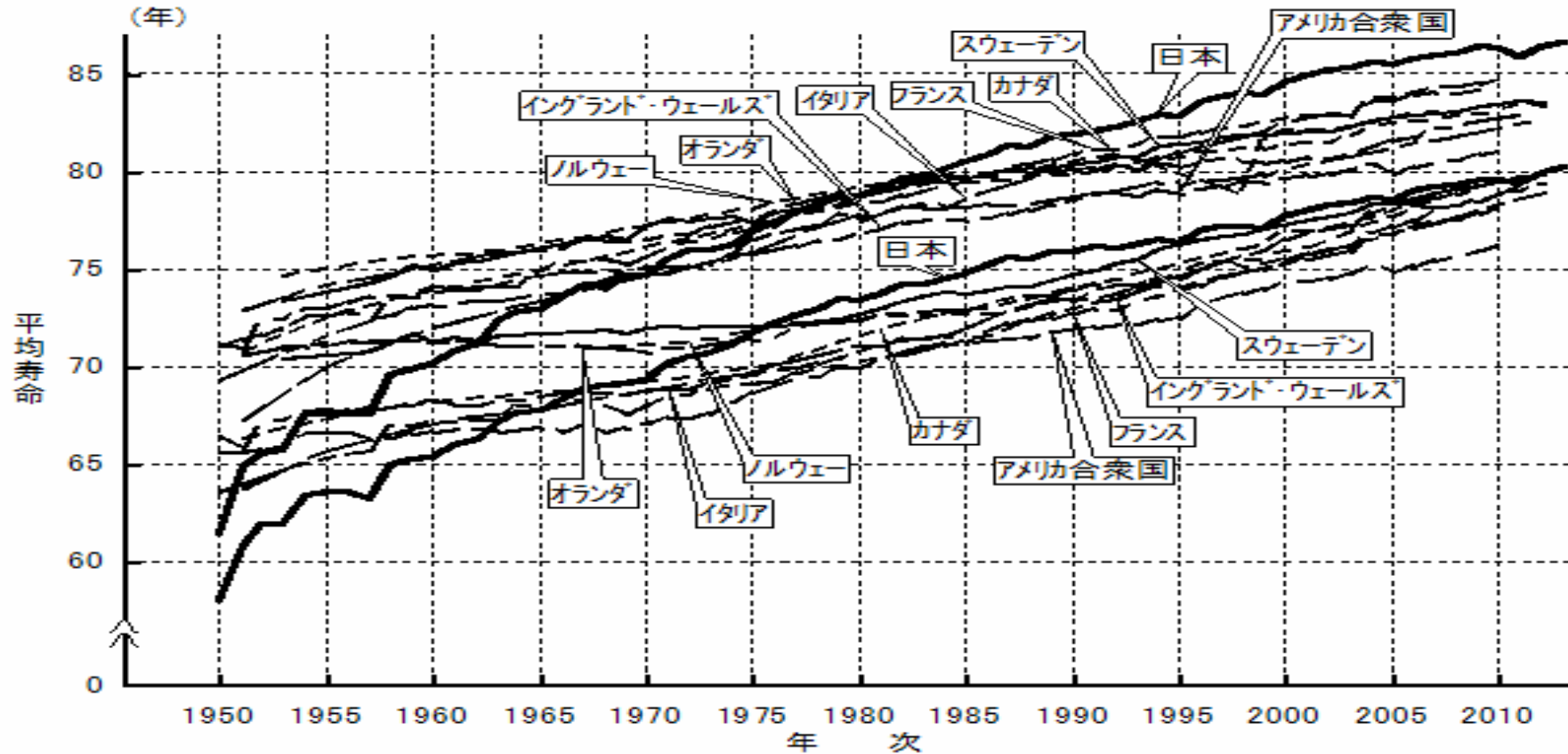
[http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/z1\\_3.html](http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/z1_3.html)、2015年11月6日参照。

# 最も長寿な国・日本

出典：『人口統計資料集（2015）』図5-3（国立社会保障・人口問題研究所ウェブサイトより）  
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2015.asp?chap=5>

\*

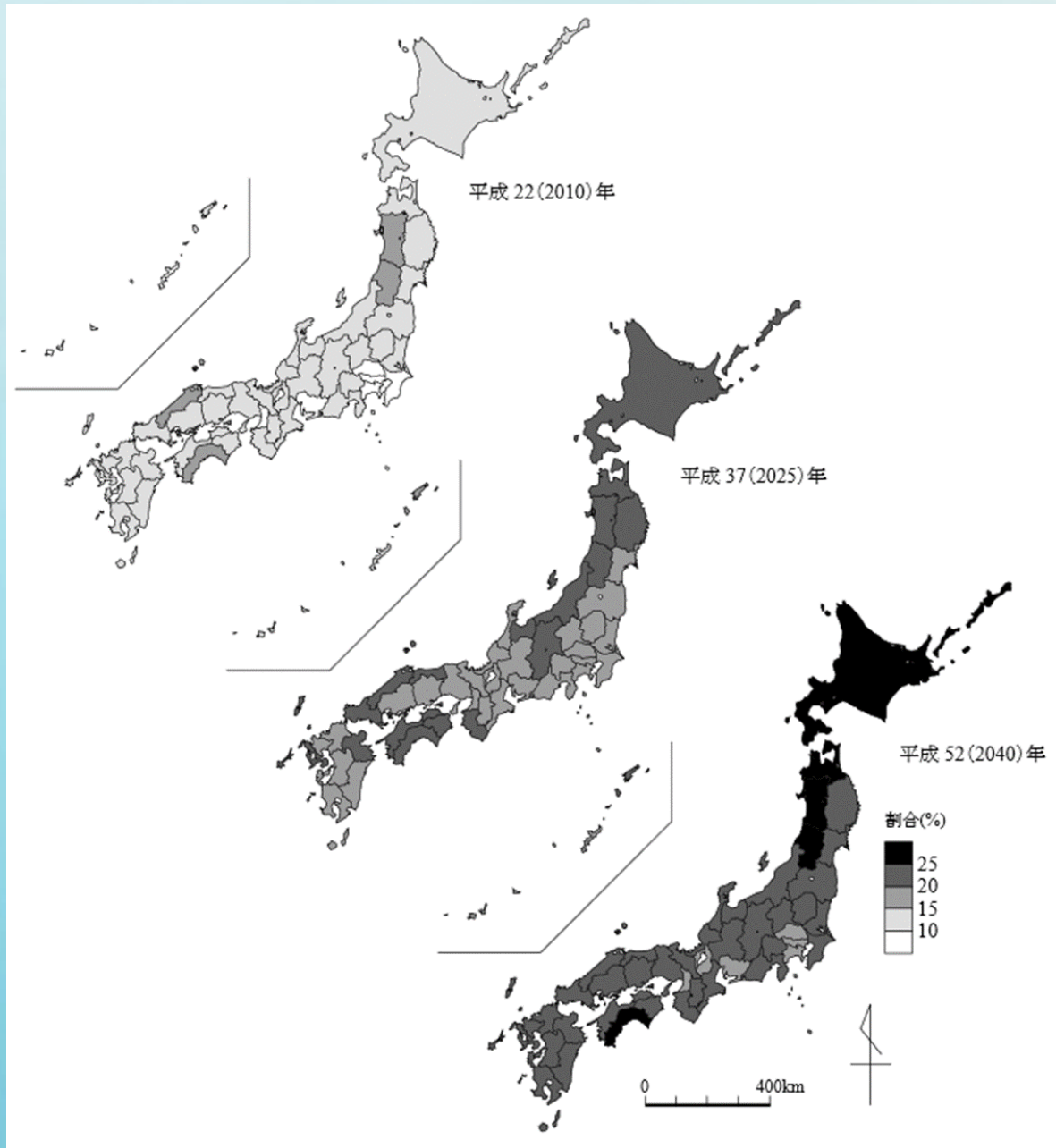
図5-3 主要国の平均寿命：1950年～最新年次



UN, Demographic Yearbook による。日本は、厚生労働省統計情報部『完全生命表』『簡易生命表』による。



# 都道府県別75歳以上人口割合(%)



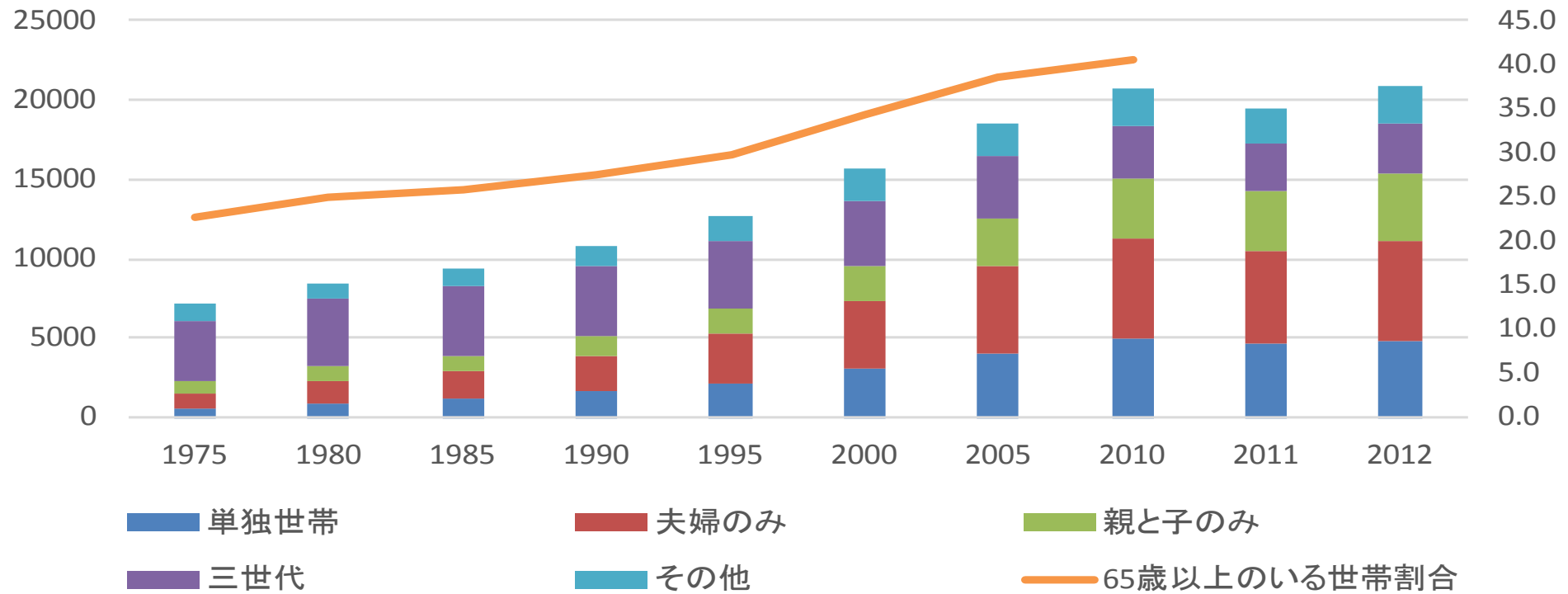
## 地域別に異なる、2010年、2025年、2040年の75歳以上人口の割合

\* 出典：報告書『日本の地域別将来推計人口－平成22(2010)～52(2040)年－(平成25(2013)年3月推計)』  
(人口問題研究資料第330号, ISSN1347-5428)  
p.60 図Ⅱ-7 都道府県別75歳以上人口の割合

(国際社会保障・人口問題研究所ウェブサイトより)  
<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson13/6houkoku/houkoku.asp>

# 生活する場の変化：誰と共に暮らすのか。

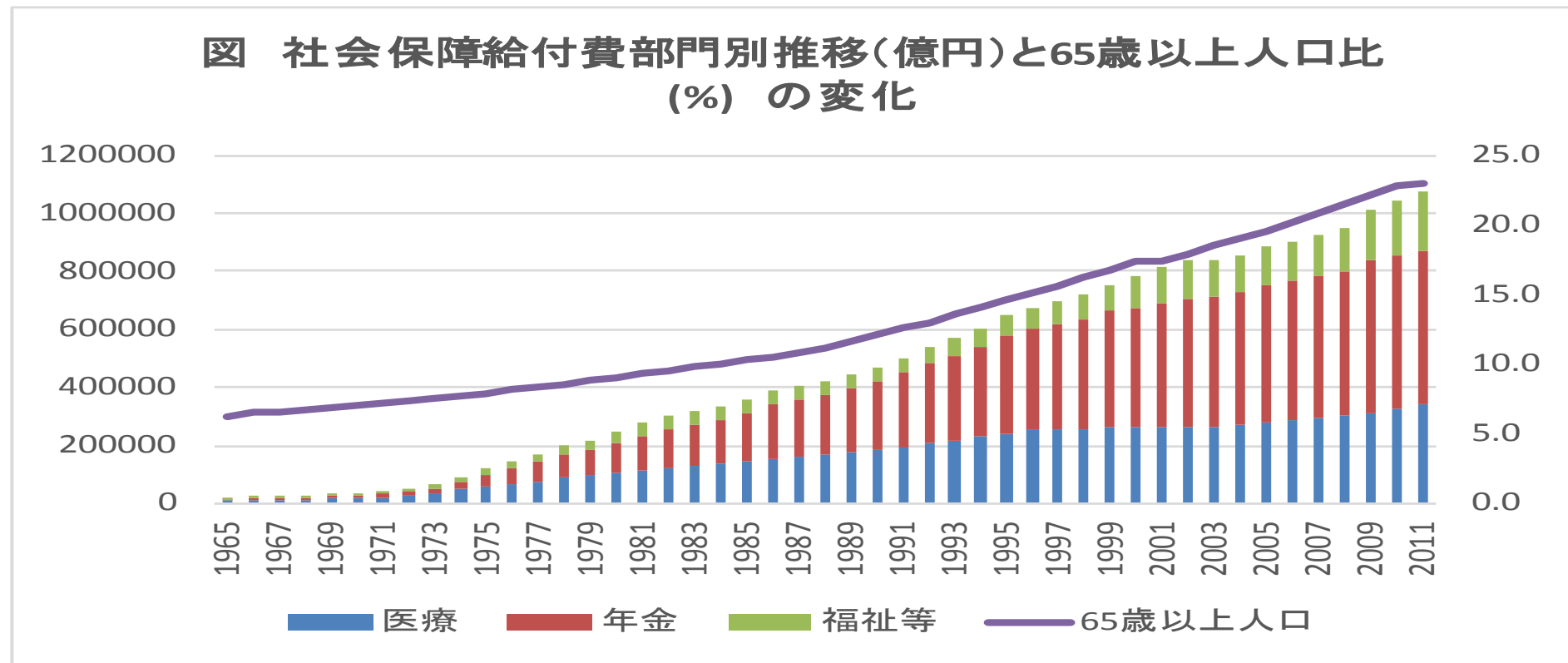
図 65歳以上のものがある世帯(千世帯)とその割合(%)の推移



出典) 『人口統計資料集 (2014)』 (国立社会保障・人口問題研究所) 表7-1と表7-15より作成

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2014.asp?chap=0> 2014年10月13日アクセス

# 特定の家族でなく、社会全体で支えるということ



出典) 『社会保障費用統計 (平成23年度)』 (国立社会保障・人口問題研究所) 表8より作成

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001116072> 2014年10月13日アクセス

『人口推計の結果の概要』 (総務省統計局) 2014年10月13日アクセス

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000000090004&cycode=0>



# 日本型福祉社会を支えていたもの

- 社会制度の基層にある家族（含み資産としての家族）
- 家族の担う役割を所与として、社会保障制度が設計された。
- 皆保険・皆年金制度が成立した1961年ごろの人口構成は底辺が広いピラミッド型。これほど短期間に人口構造が変化することはもともと想定されていなかった。

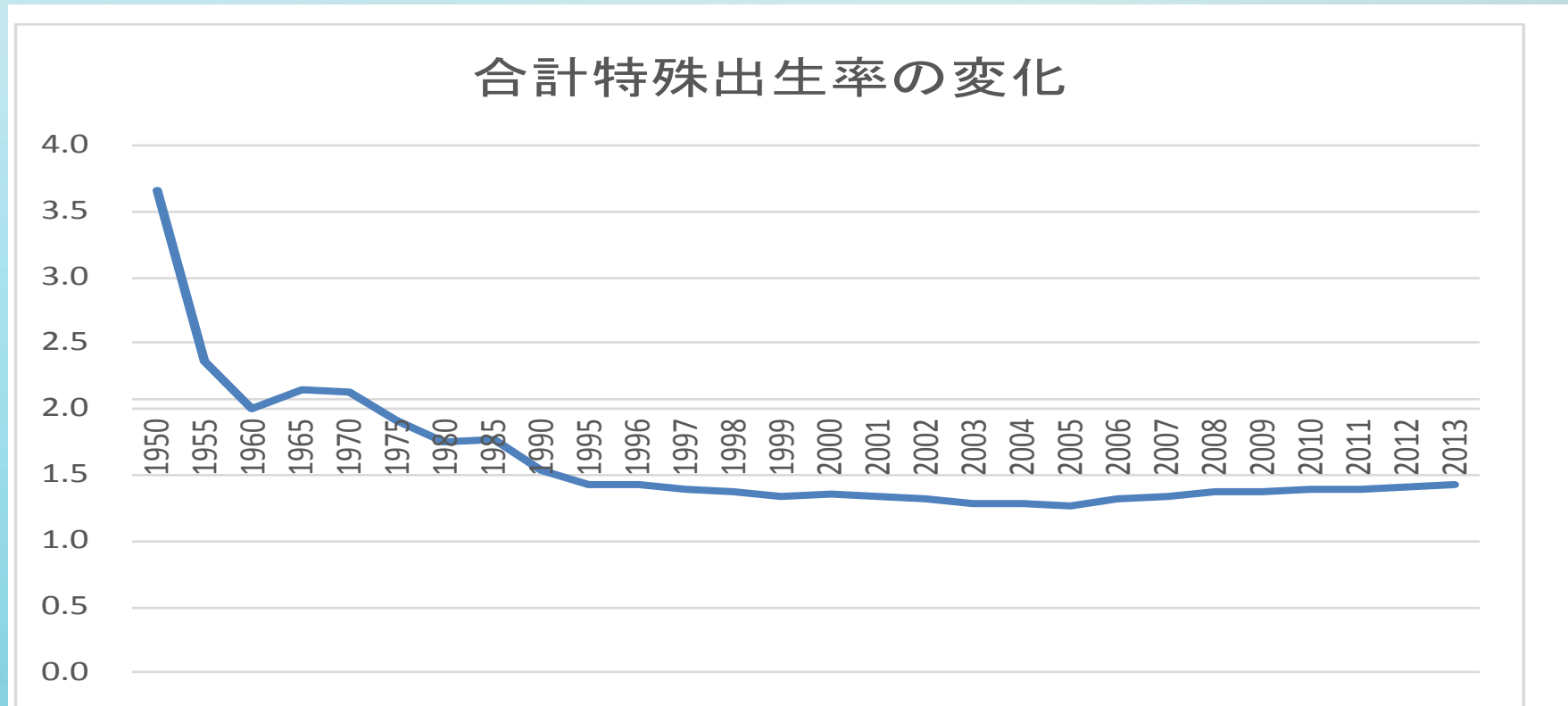
## 二つの誤算

変化の早さ  
(少子高齢化)

制度の前提条件  
(家族)の揺らぎ

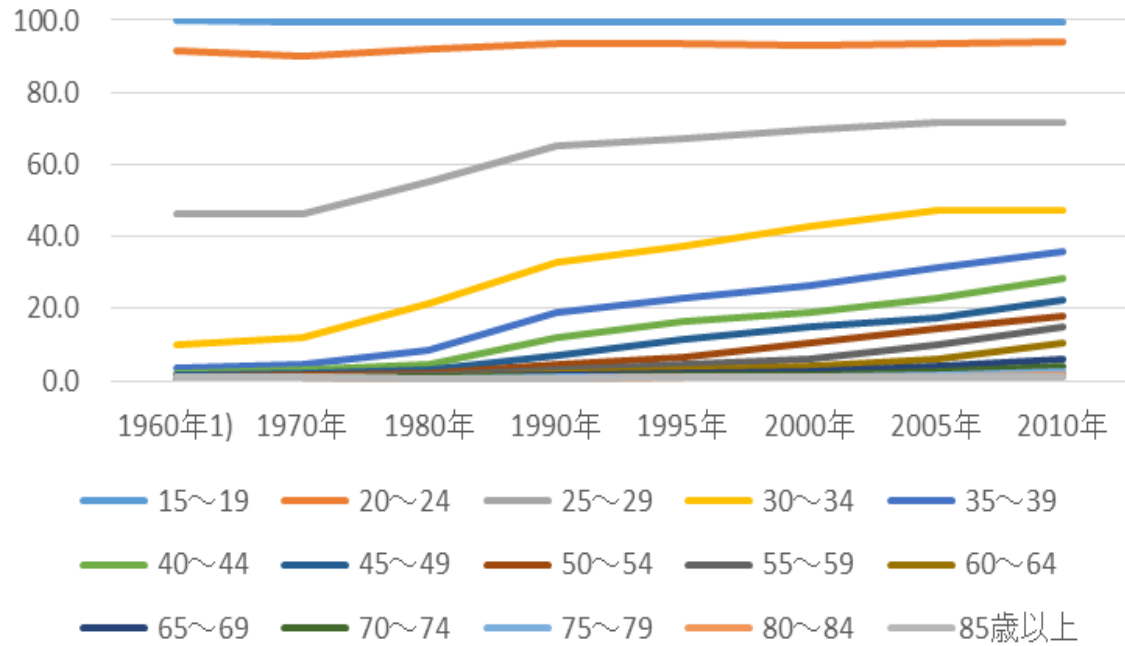
# 少子高齢化とは？

- 現時点の人口規模を維持するだけの合計特殊出生率に達しない状況（人口置換水準 = 2.07）が継続し、長寿化が進行することに伴う、人口構造の変化。

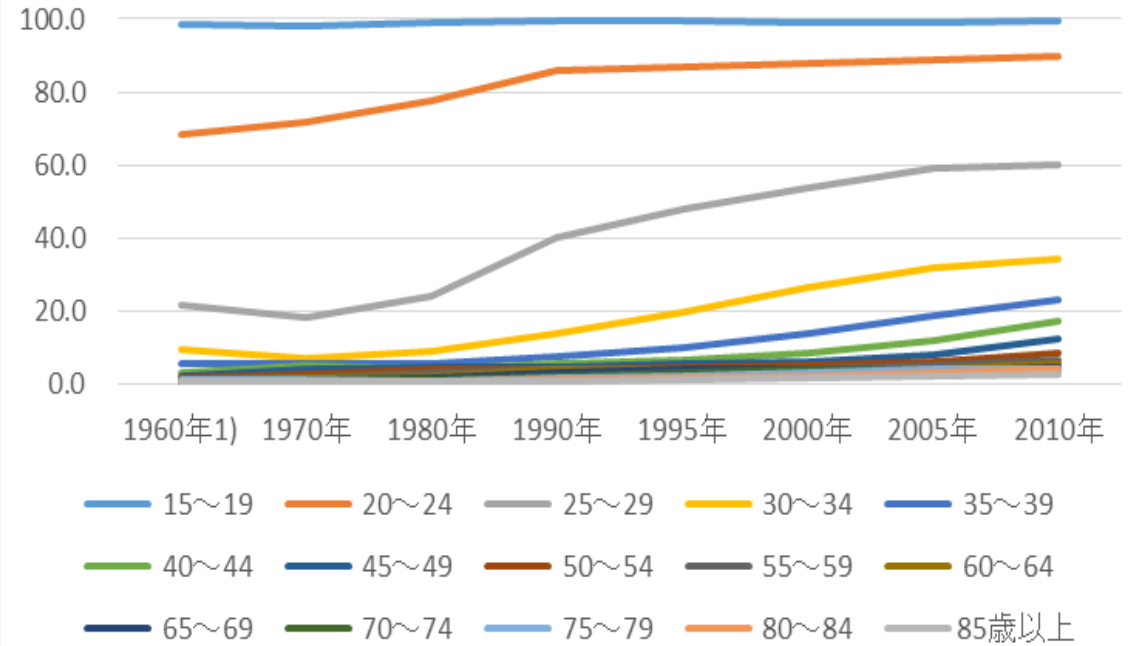


出典)『人口統計資料集(2015年)』表4-5より作成

年齢階層別未婚率(%) 男性



年齢階層別未婚率(%) 女性



『人口統計資料集（2014年）』表6-24より作成（国立社会保障・人口問題研究所ウェブサイトより）  
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2014.asp?chap=6>、2014年5月6日アクセス

# 「若年層が減って、高齢層が増えること」の現実

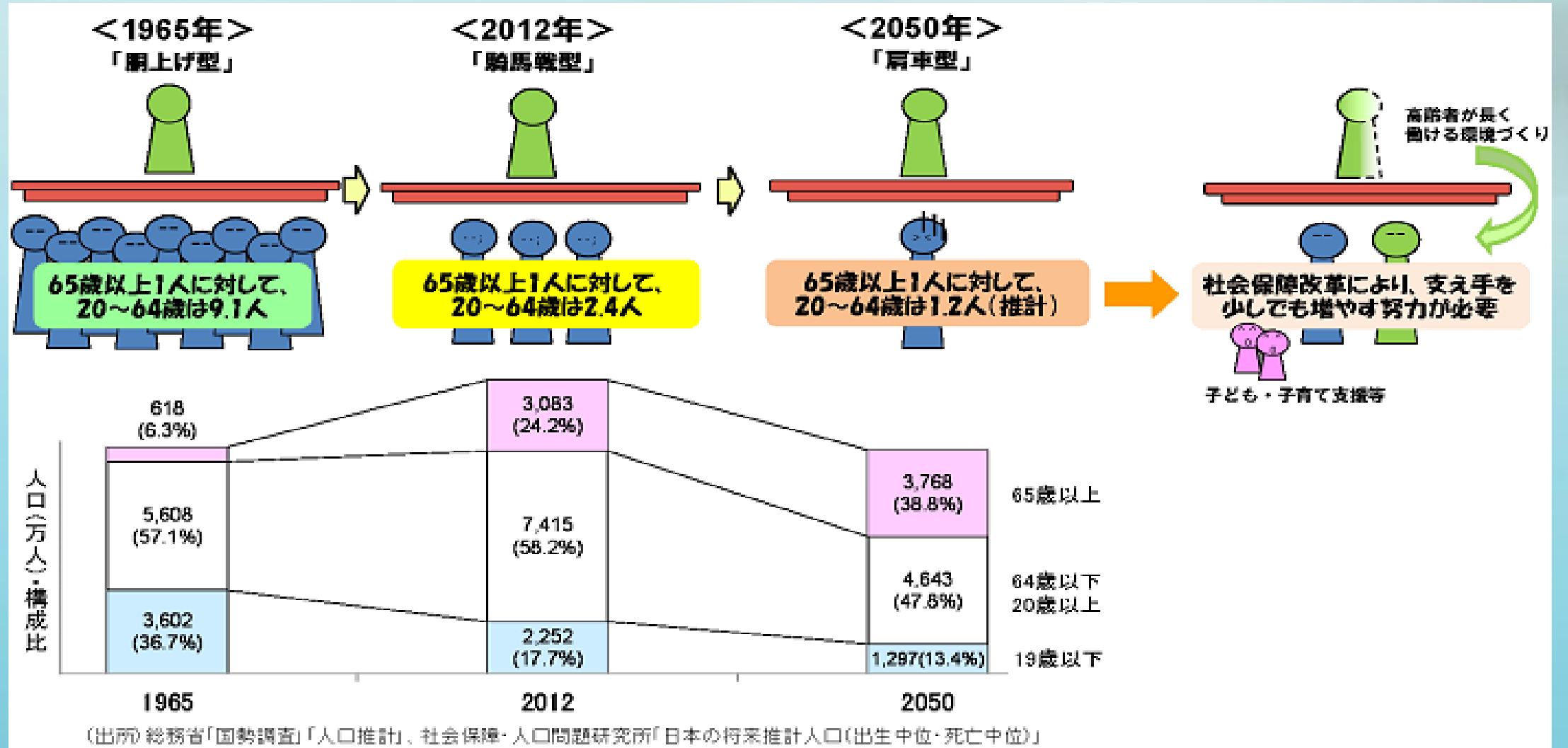
- 若者自体の人数が減る.
- きょうだいが少なくなる.
- 同級生が減る.
- 受験戦争が緩和される.

# 高齢者が増えるってこと

- 生活するうえで世話が必要な人が増える.
- 現役から引退した人が増える.
- 高齢者だけで生活する人が増える.

# 社会保障の支え手問題

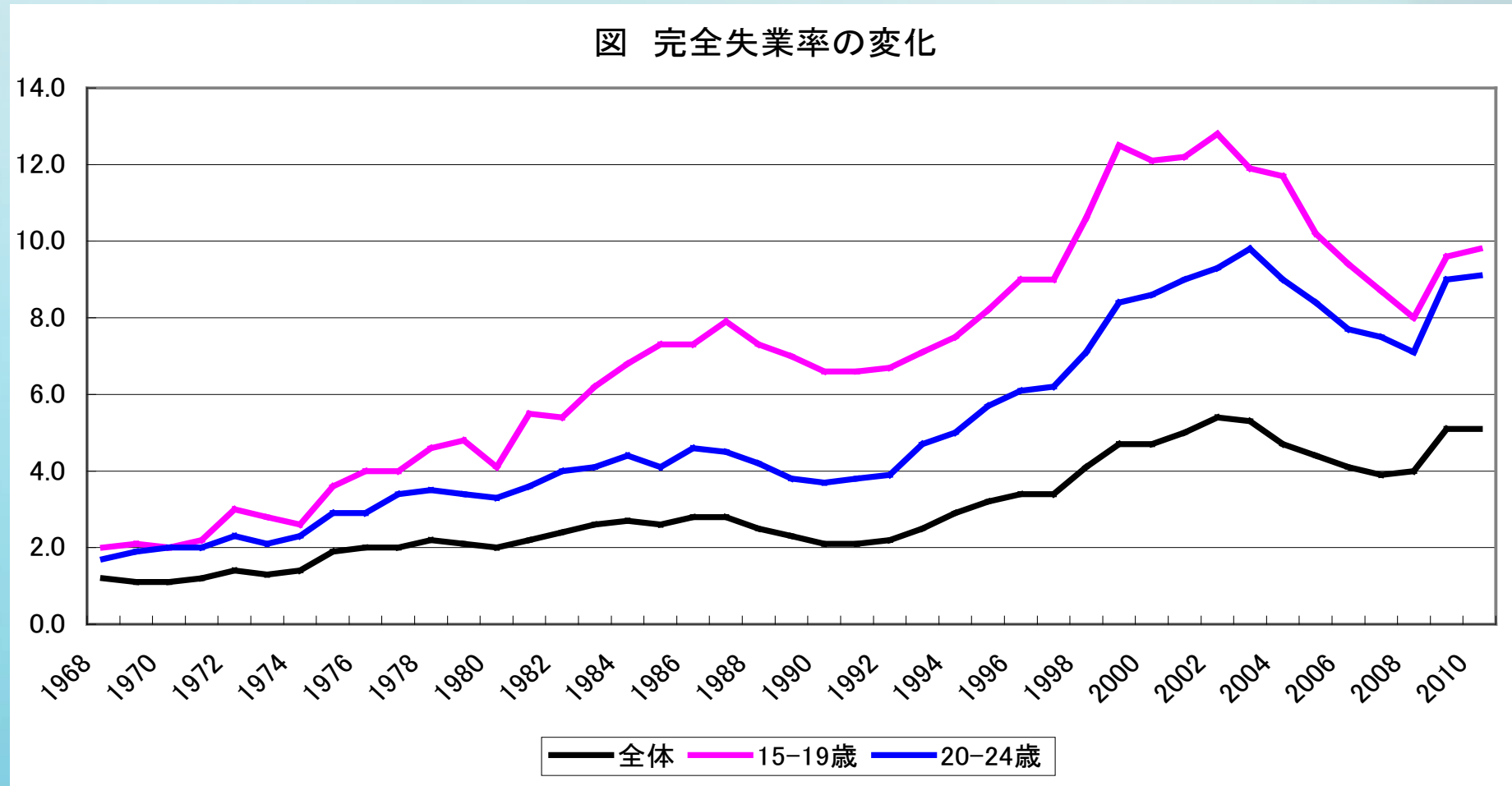
\* 出典) 「社会保障の維持・充実」 (財務省ウェブサイトより[http://www.mof.go.jp/comprehensive\\_reform/gaiyou/02.htm](http://www.mof.go.jp/comprehensive_reform/gaiyou/02.htm))



## 社会の助け合い：社会保障制度

- 不足する支え手問題
  - 少子化に伴う若年層の量的縮小
  - 若年失業率と非正規雇用率の上昇
- 支え手を増やす。
  - 生涯現役の推奨
- 支えられる対象を限定する。
  - 真に必要とする者への給付

# 若年労働市場の冷え込み



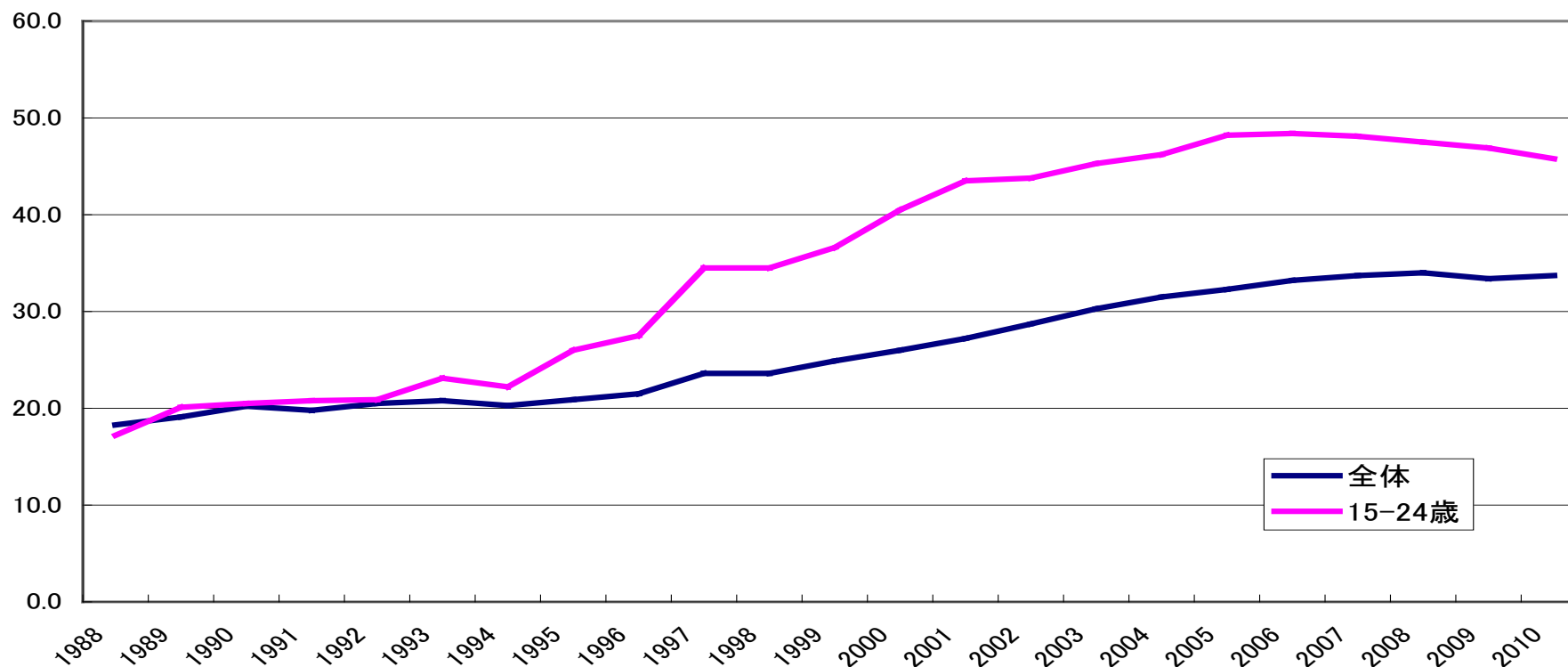
出所) 労働力調査 (総務省、各年) より作成

(長期時系列データより表3(4) 年齢階級 (5歳階級) 別完全失業者数及び完全失業率  
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm>)



# 非正規雇用割合も上昇

図 全体と若年(15-24歳)の非正規雇用率割合 (%)



出所) 2001年まで「労働力特別調査」、それ以降「労働力調査詳細集計」(総務省、各年)より作成

注) 非正規雇用率とは、雇用者の間で、「非正規の職員・従業員」(パート・アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、及び「その他」の合計の占める割合をいう。

(長期時系列データより表9 年齢階級、雇用形態別雇用者数 <http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm>)

# だれが、だれを支えるか？

- 家族の変容：

未婚化・晩婚化の進行により、家族をもたない者も増える。家族に代わる生活保障機能を提供する主体は何か？

- 変化するこれからの高齢者像：

生涯現役・アクティブエイジングを体現する高齢者

健康上の問題を抱え、経済的に困窮する高齢者

**高齢者内の多様性を  
制度的にどう位置づけるか？**

# 年齢によって分断された制度から世代を超えた支え合いの社会へ

- 少数派としての若年層
  - 少数派の声をどう届けるか.
  - 活躍の場をどう切り開いていくか.
  - 次なる世代を担う若者
  
- これからの社会を担う全年齢層

# 未来の作り手としての若者

- どんな未来を作っていくかは君たち次第、われわれ次第
- 身近な生活圏を越えた想像力を鍛える。
- 何のお手本もない未来に対して、重荷に感じることはない。前例にとらわれな  
いわれわれの社会を構築する絶好のチャンス
- 君たちの力を思う存分発揮できる環境を整備するのは大人たちの責任
- 意思決定の場に参画する多様な構成員：多様な声を届ける。

# 超高齢社会の未来

- だれも経験したことのない超高齢社会
- だからこそやりがいがある。

自由な発想と実行する勇氣

自らの生活圏を越えていかに物事を考え、判断できるかが鍵

書物を読み、先人たちの声に触れ、歴史を学び、未来を考えることが大切